

# 和歌山工業高等学校

実施日時	第1回 令和3年7月12日(月)～16日(金) 第2回 令和3年8月2日(月) 第3回 令和3年11月5日(金)
参加者	生徒 1072名、教職員 112名 計 1184名
実施内容	防災啓発 DVD 上映、地震・津波についての講演、避難訓練

## ねらい

- 1 防災と向き合い、正しい知識・判断力・行動力を身につける。
- 2 災害発生時に身の安全を確保し、すみやかに避難行動に移せるようにする。

- 1年生 343名(9クラス)、職員 18名
- 和歌山県教育庁学校教育局教育支援課  
指導主事 江見章氏による講演会  
「地震・津波についての基礎講座」

## 主なプログラム

- 1 防災啓発 DVD 上映
- 2 地震・津波についての講演会
- 3 避難訓練・シェイクアウト訓練

- 3 避難訓練・シェイクアウト訓練  
令和3年11月5日(金)  
和歌山工業高等学校  
全学年 1072名、職員 112名
- 地震発生時の訓練放送により、各教室・実習室でシェイクアウト訓練を行った。その後、津波警報が発令された想定において、全校生徒が本館3階以上への避難訓練を行った。

## 概要

- 1 防災啓発 DVD 上映  
令和3年7月12日(月)～16日(金)  
(期間内に各クラス1時間実施)  
和歌山工業高等学校 本館6階 多目的ホール  
1年生 343名(9クラス)
  - ・講演会の事前学習として、「3.11岩手大津波の記録」DVDを視聴した。
  - ・アンケート調査を行った。(防災に関する意識調査、居住地域のハザードマップについて)
- 2 地震・津波についての講演会  
令和3年8月2日(月)  
和歌山工業高等学校 体育館

## 参加者感想文

- ・改めて地震や津波の恐怖を感じた。また仲間と協力することの大切さも感じた。日頃の避難訓練の結果が大きく関わってくると思った。今後、僕たちの住んでいる地域にもいつくるかわからないので、対策や準備をしっかりと生きて延びたいと思った。
- ・地震や津波について詳しく学ぶことができた。素早く行動することの大切さや、想定にとらわれず高い場所へ逃げる事が必要だと感じた。

- 大津波を見れば、平常心を失いパニックになってしまうと思っていましたが、子供も大人も冷静に判断し行動しているのを見て、私もこのように行動できるように、日頃行っている避難訓練で学んできたことを忘れないようにしようと決めました。
- 家族でハザードマップなどの確認や防災バックの準備をしているが、自然災害はいつ発生するかわからないので普段からの心がけをもっと大事にしようと改めて感じました。私たちも自分の命は自分で守って、お互いの命を大事にしていこうと思いました。
- 避難訓練することや、先人の教えの大切さをさらに理解できた。両親と一度も防災の話をしたことはないが、帰ったらしようと思った。

## 成果と課題

### 【成果】

- 事前学習として、「3.11 岩手大津波の記録」DVDでは、地震発生から津波が到達するまでの映像や、「釜石の奇跡」についてまとめられた映像を視聴した。地震と津波の脅威を映像で感じ取るとともに、今後発生すると予想されている南海トラフ地震について、自らの命を守る事や今からできる備えなどの意識を高めることができた。
- 「地震・津波についての基礎講座」では、地震発生のメカニズムから、過去に日本で発生している地震から予想される南海トラフの巨大地震について学ぶことができた。また、最近発生している災害から、いかなる場合も想定にとらわれない事や、的確な避難を行って

く為の情報収集の方法も把握することができた。

- 避難訓練では、シェイクアウト訓練を行うことで危機意識を向上させることができた。その後、和歌山県中部を震源として発生した地震の際には、机の下に入り安全を確保した生徒や、実習室では室内が危険と感じ、迅速に建物の外へ避難した生徒もあり、訓練の成果が感じられた。

### 《DVD 視聴の様子》



## 《アンケート結果 まとめ》



## 《シェイクアウト訓練の様子》



### 【課題】

- 今後は、避難訓練や防災教育の回数を増やす事を検討している。特に避難訓練に関しては、行う時期や避難場所を再検討し、高校生が近隣の学校や地域住民と助け合い避難する共同訓練の実施を検討する必要がある。